

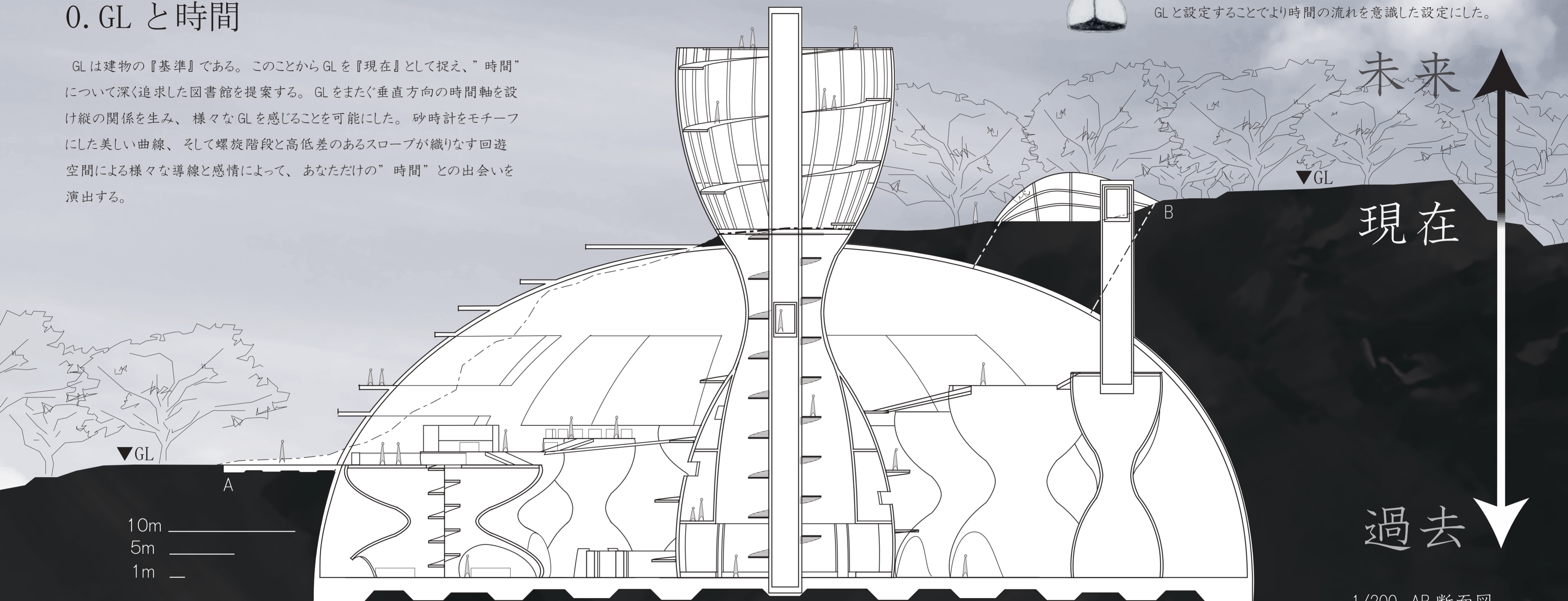
時間と出会う。

0. GL と時間

GLは建物の『基準』である。このことからGLを『現在』として捉え、“時間”について深く追求した図書館を提案する。GLをまたぐ垂直方向の時間軸を設け縦の関係を生み、様々なGLを感じることを可能にした。砂時計をモチーフにした美しい曲線、そして螺旋階段と高低差のあるスロープが織りなす回遊空間による様々な導線と感情によって、あなただけの“時間”との出会いを演出する。



砂の蓄積により時間を刻む砂時計は垂直方向の時間との関連性が強く、その砂の動きや美しい曲線美をデザインに取り入れることが可能である。徐々に減っていく砂のラインをGLと設定することでより時間の流れを意識した設定にした。



1. 背景

図書館の需要は現在インターネットの普及によって低下している。しかし、インターネットの効率的な時間の活用に対してインターネットでは得ることのできない偶然なそして運命的な出会いを図書館という場では提供できると考える。登るという言葉や行為には期待や成長などの意味が含まれており、未来に対する心理的感情を引き起こす要因になると考える。登ることは無限に広がる空から可能性や未来を感じることができ、時間と密接な関係にあるとわかる。

地下に下るとという言葉は安全な場所に逃げる隠れるなどの意味があり、普段人間が生活している地上に比べ、一般的な空間から隔離されている地下は非現実的空間として存在する。そして人間の冒険心や探究心を刺激し、新たな発見を期待させる心理効果があると考え。また地下は時間の経過による過去の蓄積であると解釈することもでき、時間と密接な関係にあるとわかる。これらのことからGLを時間と結びつけることは可能であると判断した。

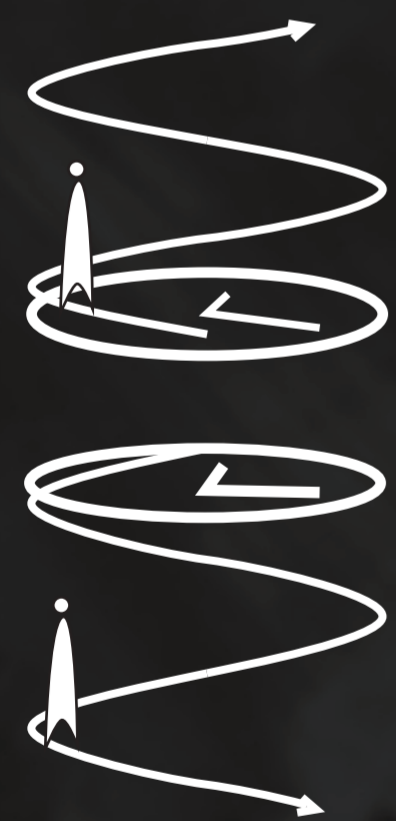
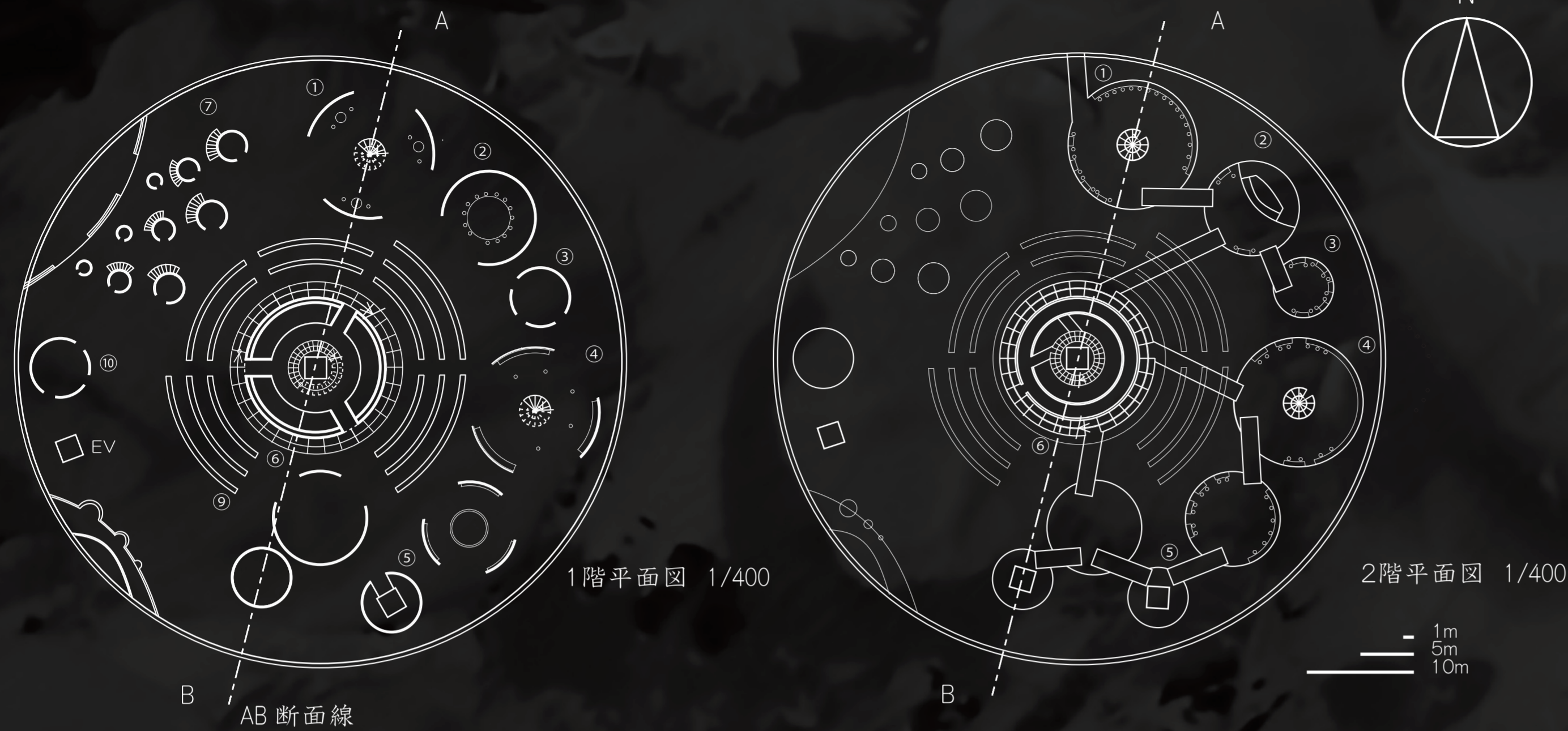
2. 敷地説明

〈横須賀・三軒家園地〉
ペリー来航や軍港としての過去があり、日本の入り口としての歴史があることから時間との関係性が強い地域である。さらに山のようになっているところに設置することで様々な形のGLが現れ、高低差を活かした縦方向の関係性が強い建築を設計することが可能であり、GLと時間を結びつけることに適した土地であると考え。



敷地図 1/2500

3. 建築の概要



時計回りで時間が進む

時計回りで未来へ登る
反時計回りで時間が戻る

反時計回りで過去へ下る

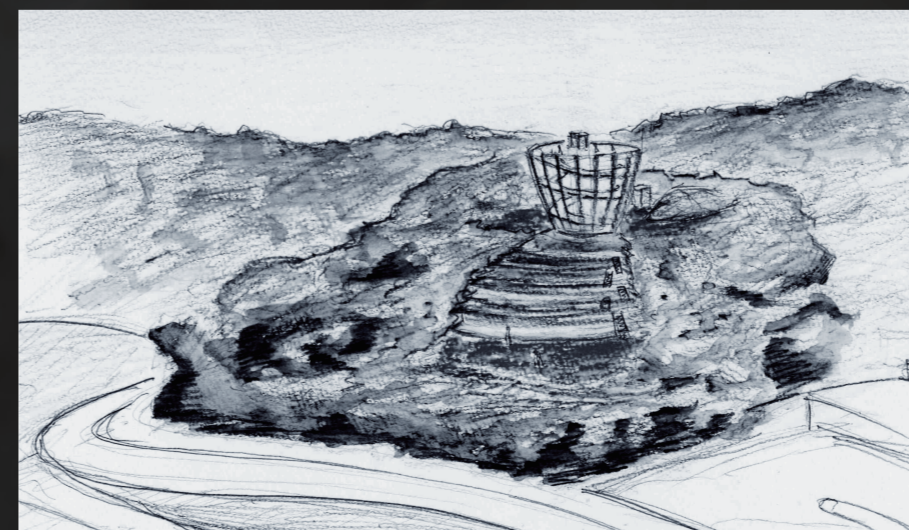
砂の蓄積度

未来

過去



入り口として中央の砂時計の螺旋階段を下るものと2つのエレベーターがある。中央にもエレベーターが設置されているが、地下に下るとい過程のこの建築における重要性を強調させるため、このエレベーターは地下から屋上への一方通行になっている。南側のエレベーターは地下の中層で一度分割されていて、一気に地上から地下へ行くことはできない。一度人々を途中で降ろし内観を高い位置から広く見せることで気になる場所を想起させ、時間との出会いを促進する効果があると考え。



① 飲食席 / 集会スペース ② カフェ・カウンター / 会議スペース (上 / 下)



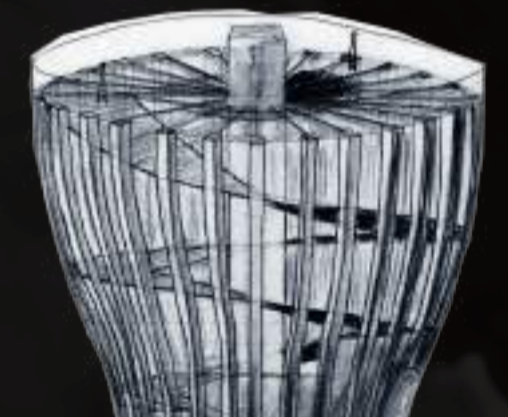
③ 飲食席 / トイレ

④ 学習・閲覧席

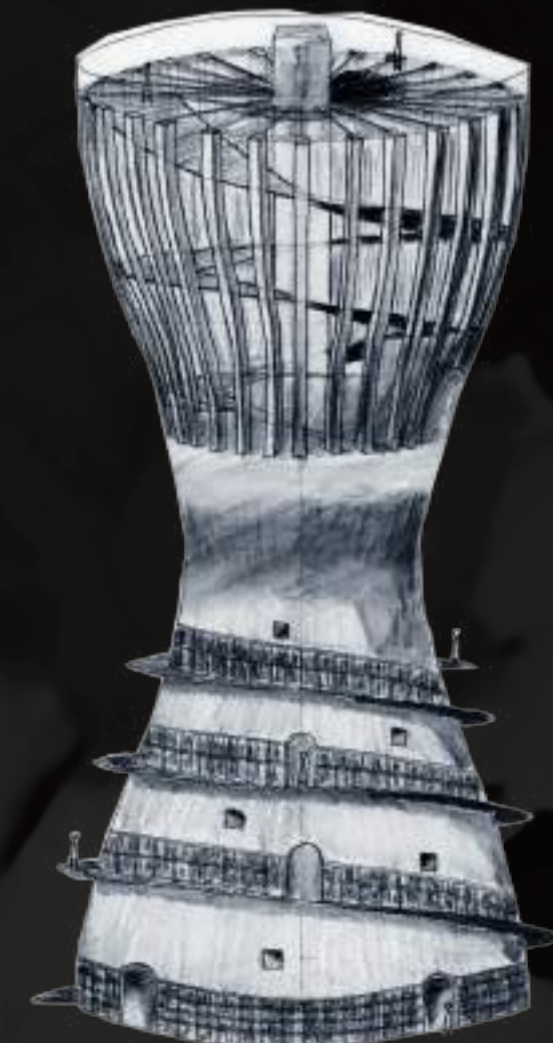
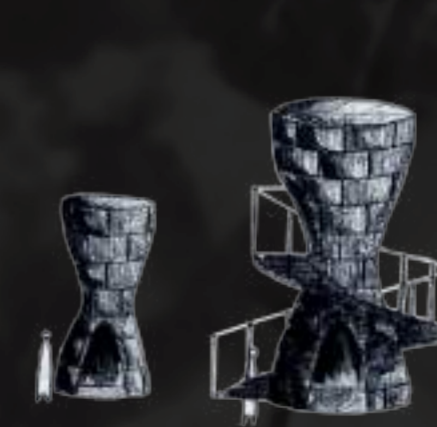


⑤ 館内エレベーター

⑥



⑦ 子供スペース



⑧ 館内展望台

⑨ 受付

⑩ トイレ